CSR > 年次報告バックナンバー > 2012年 > 特集: 東日本大震災復興への支援について

特集:東日本大震災復興への支援につい



東日本大震災復興への支援について

お客様とともに。これまでもそしてこれからも

日野自動車は、トラック、バスという商用車メーカーとしての果たすべき社会的責任を、 「お客様に"働く車"をしっかりと提供し、被災地の復興と日本経済活性化の一翼を担う」 と考え、支援しております。

> 昨年の活動内容は2011年レポートにてご紹介いたしました。 本年はその後の活動を中心にご報告いたします。



被災地に日野デュトロハイブリッドを無償貸与

狭い道でも小回りの効く小型トラックが復興作業のお役に立てるよう、2011年10月より、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の4県に、「日野デュトロ ハイブリッド」を計58台無償貸与しました。

🕑 日野デュトロ ハイブリッド 🗗



貸与先	台数
岩手県	13台
宮城県	20台
福島県	15台
茨城県	10台
合計	58台

石巻市街を走る日野デュトロ

宮城県石巻市では次の万一の災害にそなえるため、食料や毛布、発電機などの備蓄を進めており、離島を含む市内の市庁舎や学校、地区集会所などへこれらの備蓄品を市職員が日野デュトロで運んでいます。また、海水浴場の復旧や観光イベント、校舎修繕の資材運搬などにも使われ、「これからが街の復旧の本番」という地元に密着した輸送サポートをおこなっています。



フェリーに乗り離島へ



島に到着し備蓄品を保管場所へ運ぶ

水族館に送迎用バスを寄贈



アクアマリンカラーの送迎バス

福島県の水族館アクアマリンふくしま(いわき市)の館内学習プログラムやキッズプログラムで使用していた送迎バスが被災したことを聞き、グループ会社の福島日野自動車(株)は2012年3月14日、中型バス1台を寄贈しました。

「アクアマリンカラー」にデザインされたバスを前に、館長から「これで本格的な水族館活動ができる」とのお言葉をいただきました。 この活動は地元新聞社・テレビ局にも取りあげられ、紹介されました。

サウジアラビア ジャミール社、東北3県にデュトロを寄贈

サウジアラビアに本社を置き、北アフリカ3カ国の日野自動車代理店であるアブドゥル ラティフ ジャミール社は、東日本大震災で被災した東北3県に、計15台の日野デュトロを寄贈しました。

贈呈式で宮城県岩沼市役所を訪れたジャミール氏は日本に8年間住んでいた経験があり、被災した東北地方の一日も早い復興を願っての寄贈となりました。



お客様の被災車両修復対応

震災から6日後、茨城県のお客様で宮城県仙台市のスーパーマーケットの 配送をおこなう運送会社様より茨城日野自動車(株)へ、被災車両の修理 依頼があり対応しました。

被災地での食料確保に寄与すべく津波被害にあって稼動できない車両を、一刻も早く復旧する必要がありました。茨城日野はすぐに現場の確認に行き、車両や現地の状況を把握しました。茨城日野の社員自身も震災被害に見舞われており、現地での2次災害の心配もありましたが、有志を募り4人のチームで対応することとしました。



甚大被害の様子

余震が頻発し、電気もなく、雪が降るなか、お客様の仙台営業所の駐車場でチームは冠水した中型トラック6台の修理をおこないました。作業は車両のあらゆるところにへばりついているゴミを取り除くことからはじまり、

両のあらゆるところにへばりついているゴミを取り除くことからはじまり、すべての油脂類を交換し、点検整備までをすべて終えると深夜になりました。300kmを戻るとお客様が茨城日野に来て出迎えてくださり、お礼の言葉をいただきました。

後日、お客様の荷主であるスーパーマーケット様より、「数ある配送業者のなかでも一番早く駆けつけ、一番多くの車で配送してくれた。なにより被災した住民の皆さんに今日食べるものを提供できた。こんなに嬉しいことはなかった」と感謝の言葉をお客様がいただいたことを知りました。チームメンバーは大きな達成感を感じると同時に、自分たちが褒められるよりお客様が褒められたことが嬉しく、「お客様とともに」の思いを強くしました。





被害車両 4人のチームメンバー



車両修復

また2011年4月25日よりお客様の被災車両修復として販売会社のサービス工場では難しい修復作業を、メーカーの技術・設備による対応として車両12台、エンジン・キャブ各2台を、日野自動車6部署とグループ会社の(株)日野エンジニアリングアネックスおよび日野技研(株)(現・日野トレーディング(株))が連携して修復しました。

車両は泥と錆、海水の混じった油脂類で汚れており、一日も早くお客様へ車両をお返しできるよう、5カ月間にわたり 懸命に作業しました。

> 関連記事

福島県人会による支援品の贈呈

2011年7月14日・15日、故郷福島県の復興を願い日野自動車福島県人会が義援金を募り、支援品としてうちわ(4,000本)とタオル(2,100本)を、日野自動車のグループ会社である福島日野自動車(株)とともに自治体、避難所など全8カ所へ届けました。

この活動は地元新聞社に取りあげられ、日野自動車の支援として紹介されました。



配布にご協力いただいた福島日野自動車(株)と福島県人会



福島民友新聞 2011年7月16日付掲載

企業内マルシェ(産直市)の開催

2011年8月10日、羽村工場にて「福島・会津マルシェ in 羽村工場」を開催しました。すでに日野本社にて2011年6月より不定期に開催されているマルシェですが、羽村工場での初めての開催は福島県人会などのメンバーの活躍により、当日は猛暑にもかかわらずたくさんの人が来場し、暑さと風評被害を吹き飛ばすほどの勢いでにぎわいました。



来場者でにぎわう羽村マルシェ



出展の会津若松の方々と羽村マルシェ実行メンバー

東日本大震災 岩手県復興支援ボランティア活動に参加

2011年10月20日から23日までの間、トヨタグループの災害復興支援ボランティア活動に日野自動車から東北地方出身者など8名が参加し、津波で被害にあった岩手県気仙地区(陸前高田市、大船渡市)で活動をおこないました。

1日目は晴れていましたが、2日目は雨のなかでの作業となり、津波でさらわれた住宅の畑や住宅地跡の整備をおこない、土の中から石や木片などを取り除きました。

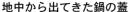


現地の瓦礫の山



作業の様子







集められた瓦礫の袋

VOICE

ボランティアに参加した大西さん

(技術研究所)

震災発生直後は東京でできる支援活動をしていましたが、や はり現地でも活動したいと思い参加しました。

発生から6カ月以上経ち、住宅地だったところは瓦礫が取り除かれ更地になっていました。しかし、地中には写真や鍋、家電製品などさまざまな生活用品が埋まっており、住民の方の生活が津波で押し流されてしまったことを現実のものとして感じました。また、破損したままの郵便局が手つかずの状態で残っており、津波の激しさを目の当たりにして衝撃を受けました。





内田さん

(総務部、事務局担当)

お手伝いに行った家のおばあさんは、震災当日、近所の家が流されていくのをただ呆然と見ているしかなかったと話してくれました。実際にその場所に立ち、家族、友人がいつもそばに居ること、温かい家があること、ゆっくり眠れること、楽しい日々は当たり前にあることではないのだと改めて痛感しました。

津波で流されてしまった庭を花壇にしたいという家族の方の 思いを知り、「小さな子どもが素足で歩いても大丈夫なくらい にきれいにしよう」と思いながら作業しました。